

「大殿周辺地区」都市再生整備計画 事後評価委員会
議事録

日時：令和3年3月16日（火） 15：30～17：00

場所：山口市役所 第11会議室

出席者

委員： 5名（委員A～Eと表記）

事務局： 8名

計12名

議事 1. 「大殿周辺地区」都市再生整備計画の事後評価について

協議（質疑）内容	
(委員 B)	その他指標 1「大殿小学校の児童生徒数」が増加した要因として、不動産の循環が活発化したことが大きいと考えられる。人口の増加、流入にあたり、市として景観形成に資する方向性や考えはあるか。
(事務局)	⇒ 大殿地区は、用途地域等の都市計画制度のみでまちづくりを進められる地区ではないと考えている。景観形成重点地区の指定についても準備を進めており、不動産の循環と合わせて景観形成に資する方針を定めつつ、人が住み続けられるようなまちづくりを進めていきたい。
(委員 A)	⇒ 人口増加とまちなみ・景観形成のバランスに配慮する必要がある。
(委員 B)	⇒ 道路が美装化されても、道路交通法上のサインや標識が景観を阻害している。次期計画の整備にあたっては、事前に関係機関との調整を行ってほしい。
(委員 C)	計画当初から地域住民との協働により事業が進められたことで、5年間で住民のまちづくりに対する意識が醸成された。住民の意見を反映しながら整備が進められた点は評価すべきであり、次期計画にも活かしてほしい。
(事務局)	⇒ 実施事業が主に道路の美装化であるため、都市再生整備計画の成果として定量的に評価することは難しいが、今後も大殿地区に対する住民の思いを醸成しながら、景観を維持・発展しつつ定住促進を図りたい。
(委員 A)	⇒ 数値化できない成果も事後評価シートの文章の中に記載いただきたい。
(委員 E)	新たに流入する人口が増えている一方で、空き家の増加も懸念される。行政との連携により、そのような情報を収集・共有することはできないか。
(事務局)	⇒ 町屋を保全する体制づくりとして、データベースの整備を住民と連携しながら検討しているところであり、次期計画に取り入れる予定である。
(委員 A)	⇒ 事後評価シートにも反映していただきたい。
(委員 D)	⇒ 定住促進のためには、空き家情報のストック、発信も必要である。

議事 2. 今後のまちづくり方策 について

協議（質疑）内容	
(委員 D)	山口都市核の 3 つのゾーンを結ぶためにも、不足地域が生じないよう区域設定を十分検討していただきたい。
(委員 A)	⇒ 事業ごとに区域設定が異なるため、各事業の位置づけを明確にすると

ともに、地域住民にとっても分かりやすいものとなるよう、住民と調整しながら区域設定する必要がある。

(事務局) ⇨ 範囲の不足が生じないように、各事業間で連携しながら検討する。

(委員C) 次期計画においては、さらに多くの地域住民からの意見を取り入れられる仕組み（イメージ図等）が必要である。

(事務局) ⇨ 大内文化街道まちなみ協議会にて策定されたまちづくり構想の中にイメージパースもあり、良い形で住民間で共有されているため、今後も協議会との連携体制を維持しながら意見抽出を図りたい。

(委員C) 山口都市核の3つのゾーンの連携にあたっては、ちょうど中間に位置する市役所のリニューアル及び交流広場の整備がポイントとなる。ここを中心とした3つのゾーンへの波及、およびゾーン間の連携について一体的に考える必要がある。

(事務局) ⇨ 市役所周辺については、土砂災害対策も十分に行いながら整備を進める。同時に、東西方向の動線づくり等、ゾーン間の連携についても十分に議論しながら、必要な整備を次期計画にて実施したい。

(委員A) ⇨ 交流広場によってゾーン間がつながるようなシナリオメイク、ソフト施策（広場の活用方法等）の検討も今後必要となる。関係部署間で意見交換しながら進めていただきたい。

(委員B) 道路の美装化について、平板と舗装の色の違いが分かりづらい箇所がある。今後の整備にあたっては、製品の選定について改めて検討いただきたい。また、将来的に、美装化した道路の補修についてどう対応するのか。

(事務局) ⇨ 今回の整備では明確に色の違いが分かる製品を利用しているが、一部、前後道路の連続性を考慮し平板の種類が他と異なる箇所がある。補修については、整備前に関係業者に照会をかけており、当面設備の老朽化等による補修はないと考えている。

【総 評】

(委員D) 行政の部署間の横のつながりが良好であり、住民にも十分に事業の説明をしていただいているため、協議会としても連携しやすい。

(委員E) 町内の情報については随時共有したいと考えている。町内会としても、引き続き密に連携していきたい。

- (委員C) 山口市は市役所あたりを中心にコンパクトなまちが形成されている。その強みを十分に生かし、効果的に周遊できるようなまちづくりを期待する。
- (委員B) 行政と住民が十分に情報交換しながらまちづくりを進めてきたことが最大の評価であると考えます。これまで以上に、行政と住民の連携を密にしていきたい。
- (委員A) まちなみを維持しながら生活道路をどう作り上げていくかについて、ロングスパンで検討していく必要がある。